

人権感覚を磨き、差別問題に自分事として向き合おう

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

私たちの暮らしの中には、様々な人権課題があります。同和問題、女性に対する差別、子どもや高齢者への虐待、障がい者差別やインターネットによる人権侵害等々。そして最近ではコロナ差別という新たな人権問題が発生しました。残念なことに、年々人権課題が増えてきているように感じます。

「自分は差別をしないし、されたこともないので、関係ない」という人がいます。しかし無関心であったり、よく知らなかったりすると、社会の中で差別に気づかないばかりか、自分が差別の当事者であることさえもわからなくなります。インターネットの掲示板では、自分の名前を名乗らなくても書き込みができるため、悪質な差別書き込みが多発しています。これは、表面では差別をしないと見せかけ、他人に見えないところで差別をすることであり、心の中に差別意識が残っている人がいることの現れではないでしょうか。

また同和問題に対して、「寝た子を起こすな」という考え方があります。これは、このままそっと放置しておけば、社会の進化に伴い、いつとはなく解消するという考え方です。また、知らない人にまで知らせると、逆に差別意識を目覚めさせてしまい、解決ができないといわれることもあります。しかしこれらの「寝た子を起こすな」のような考え方で、差別は解消するのでしょうか？多くの場合、正しい知識ではなく、インターネットなどからの誤った情報により、差別的に同和問題のことを知っていきます。これでは差別の解消にならないばかりか、むしろ差別を助長することにもなりかねません。

「差別は、見ようとしなければ見えないし、見抜く力がないと見抜けない」

「差別は、なくそうとしないかぎりなくなる。差別はますます助長される」

私たちの周りには、今も理不尽な差別により、辛く悲しい思いをしている人たちがたくさんいます。私たちはそのことを知らなければいけませんし、その人たちの思いに気づかなければいけません。自分自身も差別の当事者となるかもしれません。差別問題を決して他人事とせず、自分事として関心を向け、解決に向けて関わるひとりになりたいものです。

新しい年は少しでも人権課題が解消できるように、私たちは人権意識を高め、人権感覚を磨き、私たちにできることは何かを考えていきましょう。

2022.1

宇陀市人権啓発活動推進本部

※このピラへのご意見・ご感想は

☎0745-82-2147またはjinken@city.uda.lg.jp

